

アベリスツイス高校生派遣事業 報告書

加悦谷高等学校 糸井 萌里実

○ 参加しようと思ったきっかけと決意

近所の先輩がこの事業に参加したというのを聞いて、こういう交流事業があるということを知りました。国際交流やホームステイに興味があったので、このような機会があるならぜひ参加してみたいと思いました。自分が行けると分かったときは本当に嬉しかったです。友達と一緒に参加しようと言っていたのですが、その子はだめでした。私が行けるってことを伝えたときに、「えー。」と言われたので少し複雑な気持ちになりましたが、出発のときには「行ってらっしゃい」と言ってくれたので嬉しかったです。その子の分はもちろん、他の行けない人の分まで何かを得て帰ってこようと決心しました。

事前研修ではウェールズ、アベリスツイスについてや戦争、捕虜の話を知ることができました。初めて知ることばかりで現地でもっと詳しく学びたい、平和とは何かということについてももう一度考えてみようと思いました。

また、結団式で会長の糸井さんが「Be positive になれ」と言っておられました。不安がいっぱいあるけど、何事も前向きに考えてせっかくだいた機会を無駄にしないよういろんなことに挑戦しようと決めました。

○ アベリスツイスの印象

テレビで観るような街並みに感動しました。

カラフルな家が並んでいて田舎とは思えないくらいでした。

そして自然にもあふれていて緑がとてもきれいでした。

山の方へ行くと牛と羊がたくさん！

季節は夏でしたが、肌寒かったです。長袖で過ごしている人が多かったです。

サマータイムだったので1日がすごく長く感じました。



○ ホストファミリー

私がお世話になったのは、ヘイルウェンのおうち。

アベリスツイスの町から少し離れたところに家がありました。(車で 20 分くらい)

家は牧場を経営しておられて牛がたくさん！！



(右) ヘイルウェン

Heulwen はウェールズ語

英語では **Sunshine**

日本語では**太陽**という意味

本当に太陽みたいに明るくておちゃめで可愛い子でした。同じ年には思えないくらい綺麗でした。

英語が分からなかったときは丁寧に説明してくれてすごく嬉しかったです。

(左) ライアン

ヘイルウェンのボーイフレンド

とても面白くてお兄ちゃんみたいな感じで接することができました。



パパ

牧場を経営しているお父さん。

いつも牧場においてあまり話せなかったけど一緒にいるととても穏やかな雰囲気になりました。一緒に写真とろうと言うと恥ずかしいよと言っていました。照れ屋で可愛かったです。



ママ

第一印象は少し怖かったというのが本音…。でもいつも私のことを気にかけてくれていてとても優しい人でした。日本のことに興味を持ってくれていてこれは日本ではどうなの？とか聞いてくれてコミュニケーションを深めることができました。



ヘイルウェンはなんと **5人姉妹!**

左から 次女 ローラ

四女 マリア

五女 ジャネット

下の写真 三女 ニア

みんな仲が良くていつもふざけて笑っていました。一緒にいて楽しかったです♪

※ ジャネットの横にいるのは
ジャネットのお友達。

○ アベリスツイスで体験・経験したこと

高校生派遣団として訪れたところとかではなく、放課後や休日にヘイルウェンやみんなでしたことを日記のような形式で紹介します。

7/ 6 (Sun)

ヘイルウェンと初めての対面。美人すぎて緊張しすぎて直視することができませんでした。(笑)英語も分からなくて結構焦りました。対面したあとに、そらとそらのステイ先のメガンとで海の見えるところへ行きました。山の頂上まで行く電車に乗って行きました。天気も良かったし海もとても綺麗で気持ちよかったです。そこに雑貨屋さんとボーリング場があったのですがどちらも休日で閉まっていました。それから歩いて山を降りて、ゲームセンターへ行って遊んでからアイスクリームを食べました。そのあとに、メガンの家に行って遊びました。トランポリンをしたり、あとは今海外で流行っている **Room band** というものを作りました。**Room band** とはカラフルなゴムを組み合わせて作ったブレスレットの様なものです。それからメガンのママが作ったお昼ごはんを食べました。手作りのピザがおいしかったです!

(フランクエバンスさんのお墓参り後)

ヘイルウェンの家族と一緒にトレジャーハントに行きました。トレジャーハントとは宝物探し。例えば、ここにはこれが何個あるといったようなクイズを車で町の中で決められたルート走り、解いていくというようなもの。年に一回、7月6日に開催されてい

るそうです。難しかったけど楽しかったです。そのあとに FANTASY というところで
晩御飯を食べました。食べ終わってからみんなで鬼ごっこをしました。

1 日目からいろんなことを経験してとてもいい 1 日になりました。



海の見えるところ



Room band ☆

7/ 7 (Mon)

この日は歓迎レセプション！！日本人勢は浴衣、甚平を着て参戦しました。一番嬉しかったのは、自分の名前が刺繍の入ったトートバック。一生の宝物です。おもしろかったのは、ヘイルウェンがジュースをもらいに行ってる間にライアンとヘイルウェンのお皿に乗っているフルーツやデザートを内緒で食べちゃったこと。あとから、ばれてしまったけど～☆余興ではソーラン節を披露しました。とてもうけが良かったです。ヘイルウェンがソーランソーラン♪というのが頭から離れないと言っていました。たくさん写真も撮れたし、みんなとの仲が深まった気がしました・・・♪



ライアン・ヘイルウェンと



アベリスツイスでの
友好協会会長のアウエルさんと



山添町長と

7/ 8 (Tue)

この日はヘイルウエンが通っている学校、ペンウエディングスクールからスクールバスでヘイルウエンの家まで行く予定・・・が、乗る直前にほだかのステイ先のサムに遭遇。話してバイバイしてから乗ろうとするといつの間にか出発してしまっていました！幸い、バスの中にローラ(ヘイルウエンの妹)が乗っていたので電話して途中で止まってもらって2人で走っていきました。乗ってから、サムのせいよ！とヘイルウエンがぜえぜえ言いながら怒っていました。(笑)

それから家に行ってお菓子を食べてから町のバスに乗ってウェールズ大学のZumba というところへ行きました。そこで1時間フィットネスをしました！私は踊ることが好きだし、前からフィットネスに行ってみたかったので初めてのフィットネスが海外ということでワクワクでいっぱいでした！いい汗をかいたし、ダンサーさんがかっこよかったし、とても楽しかったです！！ヘイルウエンは毎週火曜日に通っているそうです。

終わってからママが迎えにきてくれてスーパーマーケットに行きました。水曜日の晩御飯の買い物とこの日の晩御飯の買いに行きました。カートの中はものがいっぱいで、ママに「すごい量だね！」と言うと「あなたのためにスペシャルよ！」と笑いながら言っていました。なんだか申し訳ない気持ちに・・・(泣)そのあとに、海を見ながらご飯を食べました。キラキラしていてとても綺麗でした。



お買い物カート



海

7/ 9 (Wed)

本当はこの日にイチゴ狩りへ行く予定だったのですが、電話したら閉まっていたらしいです。(笑) ヘイルウエンの家に行ってヘイルウエン、マリア、ジャネット、私

とで庭でアイスを食べました。そのあとに鬼ごっこをしました。ジャネットが可愛かったです。

それから家の中に戻ってヘイルウェンに足のネイルをしてもらいました。横でずっとジャネットが「いいなー、私もしてー！」と騒いでいたのでヘイルウェンは右手、私は左手のネイルをすることになりました。ヘイルウェンが日本とウェールズの国旗柄を書いていたのでナイスアイデアだと思いました。ジャネットが喜んでくれたので良かったです。そのあとにご飯を食べて牧場へ行きました。当たり前だけど牛がたくさん・・・！どのくらいいるのかは聞き忘れましたが、たくさんいました！なでようとする手と手をくわえようとしてきたので怖かったです。でも可愛かったです。



ジャネットにしたネイル



牛をなでる私

7/ 1 0 (Thu)

この日は、ライアンの家へ行きました。ライアンのパパは料理が得意でご飯を作ってくれていました。パスタでした。美味しかったです。一番嬉しかったのは、ライアンママに綺麗な黒い髪の毛ね！と言ってもらったことです。それから海へ行って **Kayaking** というものに行きました。**Kayaking** は1人カヌーみたいなものです。ヘイルウェンは **Kayaking** をして、私は危ないからと言われてライアンと一緒に2人でカヌーに乗りました。いっぱいしゃべったり、水の掛け合いをしたりとても楽しかったです。終わってから、ママとマリアが迎えに来てくれてマクドナルドへ行きました。日本にはないメニューもあってなんだか新鮮でした。そこでいろいろ話しているとママが日本のスマホのキーボードはどんなの？と聞いてきて、カタカナでヘイルウェンと打って見せると「お～～」と言っていました。理解していたかは分かりませんが・・・。日本語を説明するのは難しいなと思いました。



ライアンのパパの料理



マクドナルド

7/ 1 1 (Fri)

1 2人でペンウエディングスクールへ行きました。その日はチャリティーのイベントをしていました。そこには日本のブースがあったのですが、なんと日本の方がおられてみんなびっくり！千羽鶴をつくろうというのをやっておられて、みんなで鶴を折るのを手伝いました。そのあとにコンサートを見に行きました。聴き心地が良すぎてついうとうとしてしまいました・・・それからフィッシュアンドチップスを買って海へ行きました。そこで食べました。寒かったです・・・。



チャリティーで配られていた風船

7/ 1 2 (Sat)

この日は、ヘイルウェン、そら、ほだか、サム、私で Carmarthan というショッピング街てきなところへ行きました。メガンはバイトでした。そこで同じモチーフのついた、ヘイルウェンはブレスレット、私はネックレスを買いました。一生の宝

物です。それからいろんなお店を回ったり、お城を見たり、ぶらぶらしてからメガンの家へ行きました。行ったらみんなそろっていてジェンガをしたりお菓子を食べてました。



お城にて



ジェンガの様子

7/ 1 3 (Sun)

ヘイルウェン、ライアンと3人で PeaPod Junction というところへ行きました。お皿などに色を塗るところです。私は残るものにしたいと思ったのでドラゴンの形をした貯金箱にしました。それが終わってから、ニューキーという町へ行きました。

町の中をぶらぶらしたり海を見たりしました。その日はアイスを3つ食べました♪

夕方に、そら、メガン、ゆり、ゆりのステイ先のハンナと合流して晩御飯を食べました。ご飯を食べた後に、みんなで海岸へ行ってイルカを見ました。ひれしか見えなかったけど、それだけですごいと思いました。



色塗りしたもの



アイスクリーム☆

7/ 1 4 (Mon)

最終日。ヘイルウェンの家へ行きました。行ってから、マリアとジャネットとヘイルウェンと私とで Wii をしました。JUST DANCE という踊るゲームをしました。そ

れからご飯を食べて、ヘイルウェン、ライアン、ローラ、マリア、私とでトランプをしました。なにか日本のトランプゲームを教えてと言われたのでば抜きを教えました。おもしろいと喜んでくれました。帰り際にプレゼントをしました。ひまわりのついた風鈴と日本のお菓子を上げました。ヘイルウェンが「Sunflower と Sunshine ですごく似てるね！」ととても喜んでくれました。そして、ヘイルウェン家族もプレゼントをくれました。お菓子とウェールズのガイドブックで早くウェールズに帰ってきてねと言われました。とても嬉しくて号泣してしまいました。

最後の1日を特別なにかをするわけでもなく、家族の一員のように過ごせたことがとても嬉しかったです。

○ 今回学んだこと・平和について

この研修でわたしが学びたかったことは、平和とはなにかということ。それは私だけではない、みんなもそうだったと思います。

平和ってなんだろうと考えたときに私が思いついたのは家族です。昔の戦争で捕虜になった人はもちろん、その家族も犠牲になったと思います。生きて帰ってきた人もいれば、病気や栄養失調で亡くなられた人もいたでしょう。そんなとき一番悲しむのはやはり家族だと思います。

ヘイルウェンに、「あなたにとって家族とはどんな存在？」と聞いてみました。ヘイルウェンは「家族は私にとってとても大切な存在。なぜなら私の人生に大きな影響を与えてくれるから。そして人生で大切な多くのことを教えてくれるから。」と答えてくれました。ヘイルウェンの家族はいつもみんな幸せそうで、ライアンも家族の一員のように過ごしていました。家族がいるってすごく当たり前のことだけどとても幸せなことなんだと感じました。その家族がいて笑ったり泣いたり平凡な毎日を過ごすということが1番の平和だと思います。だから今思うと私が勝手に思っているだけだけど最後、家で過ごした日は平和ってこういうことなんだよって教えてくれたのかなと思います。本当にホストファミリーがヘイルウェンの家でよかったなと思いました。

今回の研修で学んだこと、出会った人たちはこれから私が生きていく糧になったと思います。恋しい帰りたくないって思うくらいアベリスツイスの町、人、自然すべてが大好きになりました！次みんなに会うときには、今までこんだけ頑張ってきたんだよと、みんなに誇れる自分でありたいなと思います。

本当に参加できてよかったです。物事についての考え方も変わったし、今まで以上に前向きになれました。そして、国際関係への興味ももっと湧いて進路も国際関係に変えていこうかなと考えています。

この交流事業に関わったすべての人に感謝します。本当にありがとうございました。
アベリスツイス・与謝野町との交流が、そして平和が永遠に続きますように・・・





アベリスツイス 派遣研修報告事業

加悦谷高等学校3年 勝山雄登

◎研修に参加した理由 目的

もともと海外に興味があり、現地に行くことで日本との文化の違い、気候など身に感じることや、将来、なりたい職業が国外に関係がある仕事なので行ってみたいという気持ち、フランクエバンスさんの話しについて知っていたので、もっと与謝野町民として知るにはいい機会だと思い今回参加させさせていただきました。

◎ウェールズについて

イギリスは四つの国から成り立っていて、そのうちの国の一つがウェールズ

緑が豊かで人口より羊が多い地域で羊の飼育などするためほとんどの木が伐採され高原になっている

イギリスの国旗(ユニオンジャック)はほとんど見ず、ウェールズの国旗しか見ないほどあった

◎アベリスツイスについて

ウェールズのちょうど真ん中の海岸沿いにある地域

人口は15,935人(01年現在)

比較に与謝野町は23,436人(現在)



アベリスツイス大学、ウェールズ国立図書館などあり、街並みは一つ一つの家が鮮やか、芸術的に感じ、中心街を少しでたら高原が広がっていて羊、牛などがたくさんいて日が照っている時には海が綺麗で海水浴など楽しめる

○アベリスツイスの街並み



○気候について

アベリスツイスはとても変わりやすい気候で、さっきまでとても晴れていたのにいきなり天気が悪くなり雨が降るといことが日常茶飯事です。

夏の出は5、6時頃で、日没はなんと午後の10時頃と遅いです！！

なので夜になっても明るく、違和感をとても感じました。

冬は夏と打って変わって日没は夕方の4時頃と、とても早いです！！

◎食事について

イギリス料理は美味しくないと言われているが、そんなことはなくとても美味しかったです。量が多く野菜類などが少ないのが特徴です。



イギリス伝統料理 Fish&Chips

○伝統的なお菓子 Wales Cake

材料:小麦粉 レーズン ベーキングパウダー ミックススパイス 卵 など

形はクッキー、食感は大判焼きに近く、味はシンプルでレーズンと粉砂糖がとてもマッチしている味になっています



Wales Cakeの生地にはレーズンなど混ぜているところ



午後のティータイム 一番下にあるのがWales Cake

◎ホストファミリーの紹介

この研修の期間、約10日間お世話になったのがパートナーAlexの家族です

夕食を毎日作っていただいたり、大学の寮までの送迎などとても親切に接していただきました

◎Alex

日本とイギリスのハーフで日本にも来たことがあります

自分のパートナーで、毎日のように一緒に行動していた

PenglaisSchoolの生徒で将来の夢はエンジニア

趣味： 絵を描くこと、ギターを弾くこと

好きなもの：ジブリ作品

◎Jason (パパ)

家事全般はほとんどパパがしていました

仕事は家でしていてほぼ毎日いて

笑い方がすごく特徴的で毎日笑っている陽気な方でした



◎Natasha (ママ)

日本に9年間住んで日本語も理解されていたので
分からないことがあっても日本語で接してくれました

仕事は銀行関係の仕事をされていて

毎日忙しそうにされていました

夜にはジョギングしたり体を動かすことが好きなママです



◎Joe (Alexの兄)

日本のハーフでAlexが2日間いないときの代わりに

一緒に行動していたJoe

ゲームがとても好きで一緒に1日中していたこともありました

彼女さんも一緒にいることが多くとても仲が良かったです



◎Phoebe (Alexの妹)

日本のハーフで自分より年下におもえないほど大人びていて

犬の散歩などよくしていました

写真を撮る機会がなかったので残念です

◎Teddy (Alexの弟)

テディとは毎日のように遊びました

Doctor Who というテレビドラマがとっても大好き

銃撃戦をしたり、こちょこちょするととても笑ったり

元気いっぱいの男の子

夕食後の映画を見るときは僕の隣に来て

一緒に見たのを覚えています



◎The National Library Of Wales (ウェールズ国立図書館)

○なぜアベリスツイスに国立図書館があるのか

- ①アベリスツイスがウェールズを中心にあるから
- ②ウェールズで最初にできた大学があったから
- ③鉄道など交通面が良かった

などが大きな理由です

毎週**4000冊**もの本が国立図書館に入ります

National Library →



○国立図書館に保管されているもの 数

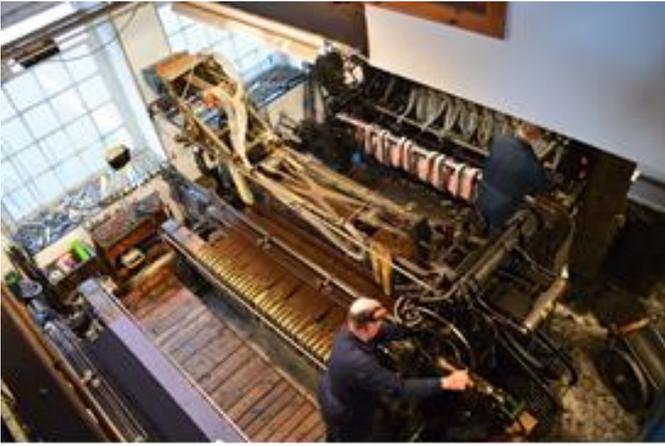
保管されているもの	おおよその数
写真	95万
レア写本	3万
美術品	5万
地図	150万
デジタル画像と電子リソース	500万
図書・雑誌	600万
フィルムのフォート	700万
サウンドとビデオの時間	55万
ITV・映画・テレビアーカイブ	20万
ユニークアーカイブ	15km

◎The National Wool Museum

Wool(羊毛)から作られる織物で丹後の織物と、とても似ています。

Woolはウェールズでの産業で最も重要です。

そこには歴史的な機械、展示品や今でも動いている機械もみることができました。昔は機械の音で耳が聞こえなくなったり、指の切断、子供も働いていて機械に挟まれて亡くなるということもあったそうです。





◎学校について

アベリスツイスでは日本の学校と全く違います

日本	年齢	アベリスツイス	年齢
小学校	7歳～12歳	Primary School	※3歳～11歳
中学校	13歳～15歳	Secondary School	12歳～18歳
高校	16歳～18歳		

※幼児組がある場合は3歳から

◎Primary Schoolについて

○授業

あるクラスの授業を見てみると、グループでパソコンなどでレポートを作成し発表しているクラスがありました。発表が終わってからもレポートに関するQizsをだしていかにもその発表を聴いていたか答えてもらうなどということもされてました



レポートを発表しているところ

その他のクラスでは僕たちが訪問する数日前までカーディフに3日間、旅行に行っていたクラスがありました。二人一組になって、iPadを使い、400枚の中から1枚選んでレポートを作ろうという授業でした。

○なぜiPad(タブレット端末)を使って授業をするのか...

- ①普通に会話するより、より会話していいコミュニケーションになるから
- ②紙で書いてするより、自ら進んでするから だそうです

ちゃんとネットにはフィルターをかけているということでした。

生徒から日本の学校って掃除とかどうなの？制服ってあるの？など日本について興味津々だったのを覚えています

また自分の楽器をもっている生徒が多かったです



僕たちのためにダンスを発表してくれた時の写真

◎Secondary School

○Penwedding School ウェールズ語系の中等教育の学校

とにかく自分の通っている高校と比べ物にならないくらい広いです！！

数学の教室だけで5つあったのはびっくりしました

授業ではとてもラフで先生との距離が近いのが印象的でした

昼休みには、ある教室で生徒さんとふれ合いました。僕たちはソーラン節を発表したり、音楽をかけたり、踊ったりなど、したい放題で、先生が来て、なにか言ってもブーイングしたりなど日本と全く違うなと思いました。とても羨ましかったです(笑)

吹奏楽の演奏も少人数のわりにとっても迫力がありびっくりしました。その他にも、ソロで歌をうたっているのにも感動、鳥肌が立ちました



メインの廊下 長く、横幅が自分の通っている高校の**2倍**ほど



音楽室



食堂でのランチタイム！！



吹奏楽の演奏、写真はソロで歌っている生徒



昼休みふれあった生徒さんとの写真

○Penglais School 英語系の中等教育の学校

PenglaisSchoolはあまりみれなかったのですが2006年に町長が訪問されたときに植えられた
椿を見ました。あいにくその時の気候が悪かったのが心残りでしたが元気に育ってました 学
校自体はPenweddingと同じく、広く少し日本に似ている廊下などありました マシュー校長か
ら学校のネクタイをいただいたりなどおもてなしを受けました 夏休みは1か月1週間ほどだそ
うです



マシュー校長との2ショット！！



2006年に植えられた椿



◎まとめ

○目的について

現地に行くと文化の違いがすごく身に感じ、食事では当たり前箸は使わない生活、気候も行くと言かないとでは感じ方も違うと思いました。

◎フランクエバンス氏

フランク・エバンス氏が大江山で捕虜として働かされていて、また再び与謝野町に訪問され今も続いているアベリスツイスと与謝野町との交流

事前研修での話を聞くと捕虜になっていた時代は共に働いていた友人の死、食べるものがなくカエルや蛇など食べていた苦しい生活だったそうです

この両町の交流でエバンス氏が伝えたかったことが少しわかった気がします

戦争はしてはいけない、世界は平和であるべきだと強く思いました

自分は戦争を体験したことがないのでどれだけ戦争が恐ろしいのが身に染みました

もし戦争になり交流したことのある相手と鉢合わせになった時あなたは どうしますか。共に武器をおろし平和を分かち合いますか。

この体験を自分から若い世代の方にエバンス氏のことが少しでも広く知ってもらえるよう伝えていきたいです

そしてこの両町の交流が長く続き、戦争のない平和な世界になりますように。

この研修に関わったすべての皆さんに心から感謝します

貴重な体験ありがとうございました



Aberystwyth

研修報告書



加悦谷高等学校 3年 坪倉由里

【研修参加のきっかけ】

私は数年前まで、アベリスツイスという町の名前すら知らずに過ごしてきました。生まれた町、野田川町が加悦町、岩滝町と合併したことにより、ウェールズのアベリスツイスが、平成の大合併で新しく誕生した与謝野町（旧加悦町）と友好関係にあることを知りました。

この友好関係が、第二次世界大戦戦時下、ウェールズの兵士フランク・エバンスさんの大江山ニッケル鉱山での捕虜体験がきっかけであったことも知りました。「戦争」「兵士」「捕虜」など…、教科書で見るコトバ、ニュースで聴く遠い国の出来事だと思っていたことが、自分の住む町で行われていた。関係のない過去のことだと思っていた「戦争」が、急に身近で現実的なこととして迫り、毎日慣れ親しんだ大江山で、外国人捕虜が日本人により強制労働させられていたという事実衝撃を受けました。そして、第二次世界大戦から長い時を経て、フランク・エバンスさんと数人のキーパーソンにより、アベリスツイスと与謝野町に友好関係が生まれ、交流が今日に続いていることは、加悦谷高校に入学し、「エイエンノヘイワ」の紙芝居を観て、ようやく知る事となりました。



アベリスツイスにある
フランク・エバンスさんのお墓



与謝野町にある慰霊碑

そして昨年秋、アベリスツイスの高校生のホストファミリーとして、ハンナ・エバンスを迎えたことで、私自身が初めてこの事業に主体的に関わることができました。

ハンナは、与謝野町で、習字や着付け、生け花、弓道に挑戦したり、保育所の子供たちが可愛かったと興奮していました。将来、日本語を修得して、JETプログラムでAETとして日本に戻ってきたいと夢を語るハンナを見て、私が、ハンナの住む町、世界一難しいと言われるウェールズ語を操る人々が暮らす町、海があり、自然豊かで美しい街並み、人の数より多い羊が群れ、訪れた人が再び訪れたいと思う町を、自分の目で見て、触って、歩いて、食べて、感じてみたいと思うようになったのは当然のことでした。アベリスツイスを訪れたことのある母から聞くアベリスツイス、多くの先輩方が感じたアベリスツイスを自分がどのように捉えることができるのか楽しみでもありました。

受験を控え、クラブ活動も最後のシーズンを迎える高校3年生の夏、アベリスツイスの研修に参加したいと意思表示することは、少々勇気のいることでした。この研修に参加したい友人は他にもあり、今回は面接等による選抜が行われました。みんなそれぞれ真面目に純粋にこの研修に参加したいと希望していました。みんなで話していると、私が過去にこの事業に関わったこと、この事業の目的を知ってしまっていることは、必ずしもアドバンテージであるとは限らないと思いました。幸運にも研修メンバーに選抜されたからには、今回アベリスツイス訪問が叶わなかった友人の分も、五感を駆使してアベリスツイスを体験し、学び、感じて家族や友人に伝えたい。恥ずかしがらずに与謝野町をアベリスツイスに伝えて来ようと思いました。まずは、見ること、知ること、知ってもらうことでこの交流の目的を達成したいと考え、出発しました。



昨年11月加悦谷高校にて
着付け教室

【ホストファミリー】

私のホストファミリーは、ハンナ・エバンスの家族でした。再会を約束していたハンナでしたが、こんなに早く、こんな形での再会が叶うとは、本当にラッキーでした。

ハンナの家族には本当によくしていただきました。



真面目で明るい**ハンナ** (左)

再会に2人して大はしゃぎ！！土日は街のレストランでアルバイトをしているため、料理に詳しく、レストランに行くたびにメニューの内容を詳しく教えてくれました。噂話や恋の話をしてくれたり、何でもないことから会話が思ったよりはずんでめちゃくちゃ盛り上がったり、日本にいる友達と何も変わらず、毎日楽しく過ごしました。

大人らしさと可愛らしさをあわせ持つ**ケイトレン**(右) 14歳

ハンナの妹。ハンナと一緒にとにかく背が高く、なんといっても14歳には見えない大人らしさ。友達が多く、常に遊びに出ていて出会えない日もしばしばありました。訪問した初日が誕生日で、一緒にお祝いしました。

姉妹そろって大の **one direction** ファンでコンサートのときに撮った生の写真や動画を見せてもらった。羨ましかったなあ…。



とにかく優しい**ジェームス** 15歳

ハンナの弟。見ての通りの高身長。おっとりとした彼はいつも「ゆり、アイスクリームいる？」と聞いてくれました。ボーイスカウトに所属しているためか、私服はほとんどカーキ色のものでした。

あと、女の子とハグをすることはめったにない

ママの**リズ**

海外の映画に出てきそうな美人。町の病院で働いておられます。

日本のことを熱心に聞いてくれて、ウェールズと比較しながら、ウェールいろいろなことを教えてくださいました。



パパの**ヒュー**

豪快で愉快で面白いパパは、小学校の校長先生です。妙に波長が合い、初日から冗談が盛り上がり、なぜか2人クッション投げに...！楽しいジョークでいつも私を笑顔にさせてくださいました。

ちなみに私が知る限り、この家族なんと車を5台も所有されており、その中にはポルシェやBMWも含まれます。私がハンナに「一体、車何台持つとるん？」と聞くと、涼しげな顔で「えーっと、たくさん！」とのこと。運転できるのはパパとママだけのはずなのに…。

【訪問先】

ウールファクトリー



綿から服が作られるような丈夫な糸になるまでの工程を、実際に機会を動かしながら説明していただきました。一度に400もの糸をつむげる機会はとても迫力があり、便利だと思ったと同時に昔はこの機会によって労働していた子供の命が奪われたと聞き、複雑な気持ちになりました。

資料館のほうには昔の手法で織られた数十種類の織物やそれを使った衣装などが、年代ごとに展示してあり、織物から歴史を感じることができました。

ナショナルライブラリー



図書館というよりは、美術館と言ったほうが正しい感じの非常に大きな施設でした。中には貴重な絵画がいくつもあり、ここに来れば自分の祖先を遡ることのできるような書類までであると聞きました。多くの資料に圧倒されました。

ウェールズ大学アベリスツイス校

私たちが宿泊させていただいたのは、ウェールズ大学アベリスツイス校の施設でした。この大学で日本人の先生からお話を伺う機会がありました。私は初めて「国際政治学」という学問があることを知り、「日本を外から、客観的にみる。」という言葉聞いたときから「国際政治学」というキーワードが頭から離れなくなっていました。大学の進路を決定しなければならぬこの時期に、海外の大学で学びたいという希望も大きくなり、実は今、とても混乱しています。



ウェールズ大学アベリスツイス校で国際政治を教えておられる橋本力さん



他にも、理系の学部では将来、火星の調査に行くロボットの 2 分の 1 の模型を見せていただいたり、映像関係の学部では BBC のラジオスタジオを見学させていただきました。本格的な映像を作るためのスタジオやカメラなどの機材が備えられており、大学の規模と設備に感動しました。

学校

5歳から11歳までの子どもが通うプライマリースクール（日本の小学校）や、11歳から16歳までの子どもが通うセカンダリースクール（日本の中学校）、また、主に英語で教育が行われているペングライス高校と、主にウェールズ語での授業がおこなわれているペンウェディング高校を訪問しました。

洋画で見るような学校の様子は、日本とは大きく異なります。特に教室の使い方は、ぜひ日本にも取り入れるべきだと思いました。日本では先生が授業ごとに教室に来て、基本的に生徒は毎時間同じ教室で授業を受けますが、この学校では先生が教室を持っておられて、授業ごとに生徒が教室を移動するという形で、また、授業が選択でき、各自が選択する教科は4、5科目。教室の移動は気分転換になり授業に集中でき、科目が少ないため、自分の興味のある分野について深く学ぶことができ、よい制度だと思いました。しかし、多くの科目を履修し、高校時代に多くの分野を学ぶ日本の一般的な教育制度の利点に気が付くこともできました。

最後に

ハンナだけではなく、私の知るアベリスツイスの人々はみな、ウェールズに誇りを持ち生活されていました。私は、与謝野町や日本を知ってもらおうと意気込んでいましたが、「知ってもらうこと」の難しさを痛感しています。言葉の壁ではありません。私自身が、今まで暮らしてきた日本や与謝野町を知らなさすぎるという、意外な盲点がありました。知らないことは伝えることができず、誇りを持つこともできないと思います。私もまずは、アベリスツイスの人たちのように自分のこと、自分の住む町のことをもっと見つめ、よく知って自信と誇りを持てるよう、まずは身の回りのことについて学習しなければならないと感じています。

1人のウェールズ人兵士フランク・エバンス氏の捕虜体験という不幸な出来事に端を発した高校生の交流事業は、おそらく他に例のない、特別なものだと思います。この事業に参加できた私たちは、平和の素晴らしさを認識し、交流の意味を理解し、このつながりを伝える使命があると思っています。人は皆、平和の尊さを知っているはずなのに、今なお紛争の中にある国や地域が存在し、苦しみ、悲しい思いをしている人々がいるということもまた事実です。なぜなんだろう。

私たちのアベリスツイス訪問は終了しましたが、ここから私たちの取り組みが始まります。知ったこと、学んだことをどう活かしていくのか。研修によって出会うことのできた私たち高校生6人が、長くこの取り組みに関わり、交流を続け、私たちなりのスタイルで考え続けたいと思います。

素晴らしい機会を与えてくださったアベリスツイスのみなさま、与謝野町アベリスツイス友好協会のみなさま、お忙しい中団長としてご同行くださった山添町長、私たちをサポートしてくださった小谷さん、通訳の谷原さん、いつでも応援してくれている家族、私たちに関わってくださったすべてのみなさまありがとうございました。

Sakura Peace Message by Frank Evans.

Consider our blossoms which are beautiful in life and death.

Never again let us and human beings die in an ugly holocaust but instead allow us all to live and die naturally in perfect peace for ever more.

(咲いているときも散った後も美しい桜。二度と再び人間が、無残に命を失うことの無いように。そして全ての人間が平和のうちに生を全うできますように。)

アベリスツイス研修報告

京都共栄学園高校2年 井谷 穂高



はじめに

僕の家は、去年サムと言う子をアベリスツイスから、ホームステイとして受け入れていました。僕は、その経験から、僕は、サムの住んでいるところはどんなところなんだろう、や、エバンスさんについて興味がわいてきました。そこで僕は今度はこちらがウェールズがどんなところなのか気になって応募させていただきました。

まだこのときは、エバンスさんについてあまり知りませんでした。しかし、今回の研修でエバンスさんについて、また、平和についていろいろなことを学ばせてもらいました。そのことを一部ではありますが報告させていただきます。

ホストファミリー



ぼくは、去年ホームステイしてきたサムの家がホストファミリーでした。右がサムで、左の方がお母さんです。去年はこちらが日本について紹介していましたが、今回はウェールズについて紹介してくれました。また、サムの母親に、日本について紹介したり、みんなに日本について喋ったりしていました。父親のほうは離婚して再婚しても友達、みたいな感じで父親が二人いるようなイメージを受けました。離婚して、再婚したけど仲がいい、のような関係は向こうでは珍しいことではないらしく、他のホストファミリーの家でもそんな関係の家がありました。

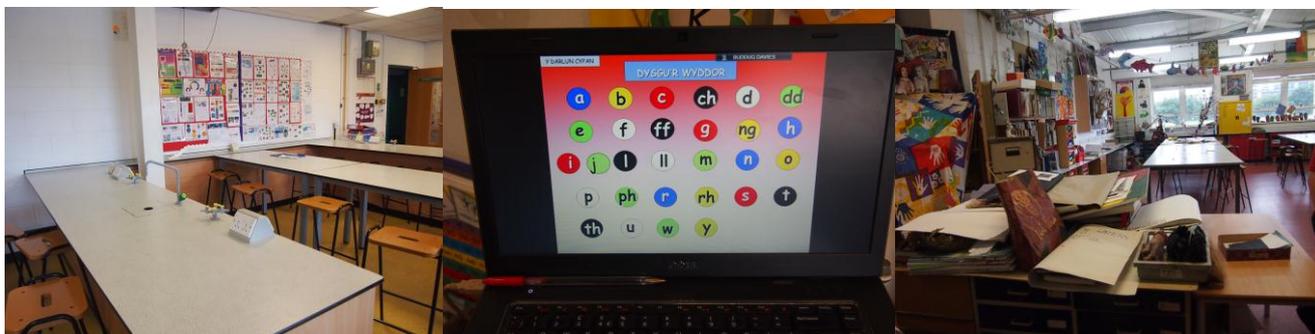
訪れた場所



ウールミュージアムとまた、大学の施設(生物学系)のところを見せてもらいました。ウールミュージアムでは、伝統的な機織機や、また、色々な時代の機織機等を見せられました。与謝野町の機織りとは、羊かシルクかと言う時点で異なっていましたが、構造が似てるところもあり、見ていて驚きました。

また、ミュージアムの機織機は一応稼動しており、織物を作っていました。常に人がついていけないと駄目らしく、まわりでずっと人が操作していました。これを見ると、やはり産業革命の素晴らしさ、現在社会の素晴らしさを思い知らされました。

また、大学の施設のほうでは、ススキを使って何か実用的なものを生み出せないかという研究がされていました。光や水などの条件を変えて、植物を栽培しているところもを見せてもらいました。また、バイオエタノールかどうかは知りませんが、その辺の草を使って燃料を作る機械なども見せてもらいました。理系で、理工学部志望なので、複雑そうな機械を見て興味がわいていました。



学校の施設も見せてもらいました。プライマリースクールとセカンダリースクールを見せてもらいました。プライマリースクールでもセカンダリースクールでもやはり日本の学校と違うところは、先生と生

徒の距離が近いところです。また、生徒が先生のいる教室に移動する方式を取っていたので、とても教室の数が多かったのを覚えています。セカンダリースクールは、日本の高校みたいな場所なのですが、日本の高校とは違って、かなり自由度が高そうでした。また、これはかなり羨ましいと思いましたが、むこうでは学年があがると4科目を専攻して勉強するようです。日本だと、10科目以上を取らないといけなくて、やりたい科目にしぼって勉強できないので、ほんとにこれは羨ましいと思いました。



これは、ナショナルライブラリー（国立図書館）です。本や絵画をひたすら収納していて、今でも成長しているらしいです。なぜ、首都のカーディフでなくここにあるのか、と聞きましたが、ここがウェールズのちょうど真ん中にあるからなんだ、と言われて、日本だったら絶対東京に置くだらうな、と、考え方の違いを感じました。

大学のメインのキャンパスも見せてもらいました。ここでは、映像系の施設や、電子システム工学の施設や、国際政治学部についてみせてもらいました。色んな施設を見せてもらいましたが、どれも立派で、また、上等なものがそろっていて、大学への期待が沸いてきました。



電子システム工学のところでは、教授らしき人に今のうちに何をやっておけばいいか、また、大学に入って何をやるかなどを教えてもらい、がんばろうと言う意欲がわきました。

また、国際政治学部では、どうやったら戦争がなくなるか、どうやったら平和な世界になるか、と言うことを勉強しているようでした。これは、まさにエバンスさんの望んでいた、永遠の平和という言葉と同じだと思い、こんな偶然もあるのか、と感心していました。



朝市に連れて行ってもらいました。

道端にいろんな商品を出して、販売してる光景は、祭りのときの露天を彷彿させられ、気分が高揚しました。

道路にまったく活気がない日本は、こういうことを少しでもやれば活気が出そうなのにな、と思ったりさせられました。

エバンスさんのお墓

この研修のメインであるエバンスさんのお墓に行ってきました。エバンスさんのお墓は見晴らしのいい原っぱにあり、エバンスさんは安らかに眠られていたと思います。式典のときに、アベリスツイスの町長さんが、エバンスさんのおかげでこの交流ができた、とっておられました。ほんとにそのとおりだと思いましたし、今度は僕たちの世代がこの交流を引き継いで、そしてつづけていければいいな、と思いました。



研修で感じたこと

一番思ったことは、人との付き合い方が素敵だな、と思われました。ちょっとしたことでも、さらには道行く人であってもthank youって言ったり、sorry、と言えたり、また、自分が思ったことをちゃんと主張できたりするところは、素敵だなと思いました。日本では、みんなどうしても自分の言いたいことをついつい我慢してしまったりして、それであとあと嫌になったりしがちです。そういうあたりはとても見習いたいと思えました。

また、時間の流れをゆっくりに感じました。日本のようにせわしくなく、みんな個人個人「今」と言う時間を楽しんでいるように感じました。

また、待ち合わせなどにルーズで、平気で遅れてきたり、また、「～～に行くよー」と言われていても、突然変更になったりと、そういうところも含めて日本はせわしすぎるな、と思われました。

こう見ていると、ただのゆるすぎるように見えますが、道路標識などは、英語、ウェールズ語で書かれていたり、イングランドで1くりにされるのを嫌ったり、自分がウェールズ人であることに誇りを持っていました。

また、海外と言うと、少し距離を感じたり、する感じもあると思います。しかし、行ってみると、同じくらいの年頃の人と接したからか、意外と同じような考えだったり、オープンキャンパスに行っていたりと、どの国も言語が違うだけであまり変わらないなと思ったり、言語さえ分かっただけでどんな人間も分かり合えそうだな、とおもいました。



最後に

いろいろなことを学ばせてもらった研修だと思います。去年とは逆で、ウェールズのよさをたくさん教えてもらえたとし、日本との違いを知り、とても驚きました。

また、英語については意外と身振り手振りや、文法を気にせずしゃべっても通じたりするので、次回のときに行きたい！と思う人は是非チャレンジして、日本のよさを伝え、ウェールズのよさをいろんな人にアピールして行ってほしいです。そして、この交流をどんどん広げて、エバンスさんのことを知っている人をもっと増やして行ってほしいと思います！また、この交流を学生だけでなくもっと広い世代に知ってもらいたいし、もっと広い世代に参加してもらいたいです。そして、僕自身も大学生になっても大人になってもこの交流に参加したいです。そして、エバンスさんが言っていた永遠の平和、がいつか実現されるよう願っています。

最後になりましたが、この研修を支援してくださった皆さん、研修生の皆さん、そしてホストファミリーの皆さん、本当にありがとうございました！！



アベリスイス実績報告書

宮津高校 2年 岡野 晃大



・はじめに

僕がこの派遣事業に参加した理由は大きく分けて2つあります。1つ目は海外の友達をつくり、海外の異文化を学び、吸収したい、そこから何か自分自身が得られるモノがあるのでは？と思ったからです。2つ目は僕の友達が短期留学に行き、人間的に大きく成長して帰ってきたので、僕も異国の地を訪れ、自分を見つめ直し、自己主張できる人間になりたいと思い参加しました。

しかし、事前研修が始まるまでこの地で強制労働が行われていたことについて、半信半疑だった僕も事前研修をするにつれて、それは実際に行われていた事実だと分かり、また新たな疑問が浮かんできました。これはアベリスツイスで学んだこと、感じたことを、まとめた報告書です。

・ホストファミリー

ベサン(Bethan)



17歳 僕より一つ年上だけど、すごく大人でマイペース。学校では英語とウェールズ語のほかにポーランド語も学び少しは話せる。来年からは大学生で、大学で理系の生物学や環境学を学んで、将来は研究者になりたいらしい。

ベディアン(Bedian)



プライマリースクールの先生をしている。いつもジョークを言って本当に面白かった。趣味はロードバイクで週末はよくサイクリングに出かける。チェスが上手。愛車のプジョーの赤い車がよく似合っていた。

ルース(Ruth)



ホストマザーも学校の先生で専門はウェールズ語、出身はアルジェリアだけど、イギリスの大学に入学して二人は大学の海辺で出会ったらしい。料理が得意で、デザートチーズケーキはとっても美味しかった。

イバン(Ifan)



15歳 最近のお気に入りはこのサングラス！本人は背が小さいことを気にしているが、勇気と優しさがあり、まさに小さな巨人。学校の先生から、日本語のあいさつを学んできたりと日本について興味があり、色々質問をしてくれた。

カーディー (ゴールデンレトリバー)



メスの7歳 水遊びが大好きで近くの川が散歩コース。散歩の途中でホストファザーが首輪を外すと一目散に走り出し、500mほど歩いた先の川で魚を追いかけていた。

・日常生活

交通手段

アベリスツイスに住んでいる人の交通手段はほぼ車。そのためかガソリンの値段は高く1ℓ 1.36ポンド (日本円で245円) 日本も高いがイギリスはもっと高い!



また、日本でよく目にするママチャリの自転車はまったくなく、「自転車にカゴなんてついてないよ」と言われるほどでした。

食生活



イギリスの主食といえば、なんといっても「フィッシュアンドチップス」です。フィッシュは当然白魚を衣で揚げたもの、チップスはあのスナック菓子のポテトチップスではないです。それは、英語ではクリspbといひます。うーん、ややこしい。この上にケチャップや塩、ピネガーなどをかけて食べます。ピネガーとは日本ていうお酢の味に似ていて、ワインの上澄み液からできるそうです。どの料理も美味しかったですが、ピネガーだけは駄目でした。



また、ウェールズでは羊が大きな産業の一つで、夕食はラムチョップを食べました。ウェールズでは生後1年までの羊しか食用としないので独特の臭みもなく、初めてのラム肉挑戦でしたが、とても食べやすく、美味しかったです。さらに、ラムチョップの他にもミントソース和えのラム肉など、一昔前は臭みを消すために使われた調理法なども、教えてもらいました。

街並み



全ての家がレンガ造りで各家々にある煙突が街並みの美しさを引き出していました。道端にずらりと並んでいる路上駐車車の車がいかにイギリスらしかったです。



アベリスツイスは海辺の街なのでシーグル(かもめ)がそこらじゅうに飛んでいて、早朝、聞こえてくる鳴き声により清々しい気持ちで起きることができました。しかし、一歩路地裏に行くと、そこにはシーグルのフンが落ちていたりと日本のどこもキレイとは少し違い、日本の良さにも気づかされました。

・ファームで

土曜日にはベサンのクラスメイトのダヴィズ家（Dafydd）に行きました。その家では牧場を経営していて、ダヴィズ家の両親と二人の姉、そして13歳のヘディー、ホームファミリーと共に話しをしたり、広い牧場を車で移動したりしました。なんとその車が日本の「三菱」の車で「ミツビシはとっても丈夫で小回りが利く、いい車だよ」とダヴィズ家のお父さんが褒めていました。日本製品の品質の良さは世界でも認められていると感じ、少し嬉しく思いました。



←車から逃げている羊たち

さて、ファームの様子について、この牧場では食用の羊、牛、そしてラマを1頭飼っています。なんでラマを飼ってるの？と聞くと「面白いからさ！」と返ってきました、こんなところが外国らしいですね。



羊は三ヶ月ごとに、オーストラリアから輸入して約1年経つと、パキスタンやイングランドに出荷します。「美味しい羊にする為の秘訣は？」と聞くと、一言「草さ！」だそうです。しかし、本当に草は羊に深く関係していて、3月に輸入した羊は春先の新芽の草を食べる事で美味しくなるらしく、市場でも高く売れるそうです。

ところで、放牧といえば犬を想像しませんか？そう、牧羊犬です。現在、柵があるので羊を追いかける犬はいませんが、天敵のキツネを駆除するために飼育しているそうです。



←ウェールズ地方伝統の犬種です

名前はベル メスの2歳です。ベルは初めてヘディーがドッグトレーニングした犬です。13歳のヘディーはこの獰猛そうな犬をしっかりつけていました。ヘディーはこのファームを継ぐために、日頃からお父さんの仕事を手伝っています。親孝行で本当に中学生？と思ったほどです。でも、とてもおちゃめで話すと面白い子でした。

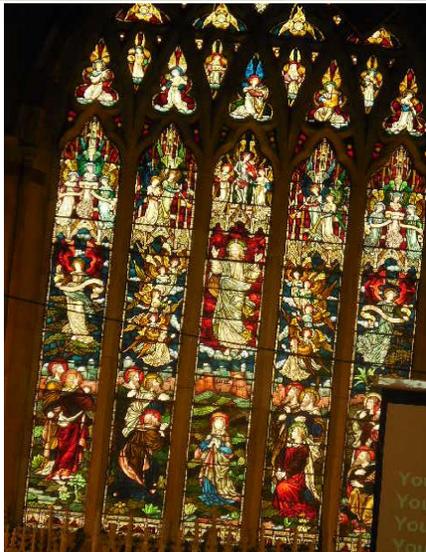


背がほとんど一緒・・・

・教会で



日曜日はミサがあったのでアベリスツイスで一番大きな教会に訪れ、キリスト教に触れてみました。最初に補足しておきたいのですが、キリスト教にも宗派があり、ウェールズの人々はカトリックではなくアングリカンチャーチと呼ばれます。ミサの様子ですが、人々が十字架をもってブツブツとお祈りをしているのかなと思っていましたが、全然違いました。



最初から最後までずっと歌を唄っていました、賛美歌などではなく、もっと元気になる歌でした。ミサでの歌はクリスマスの聖夜だけかなと思っていましたが、毎週日曜日このように、みんなで集まって歌を唄う。なんか、仏教と違ってみんな信仰心が熱く、かつ楽しそうで僕もサビの部分は一緒に唄ってました。とても、新鮮で貴重な体験になりました。

・チャリティーで



僕たちが訪れたペンウェディングスクールでは休日、学生が主体の10代のガン患者を助けるためのチャリティーが開かれていました。学校のチャリティーコンサートでは、学生主体のコンサートが開かれており、日本の学生とは比べ物にならないくらい技術があり感心しました。

日本の高校では募金活動はあっても、ここまで規模の大きいチャリティーはなかなか開催することができません

が、イギリスではこのようなチャリティーをときどき開くそうです。自分で行動する行動力のある生徒が多いと感じました。これは、小学校の時から自ら発言する機会を与えられているからだと思います。プライマリースクールでは、自分でまとめたことを発表するなど、日本とは違いとても自由で子供たちはのびのびと生活をしていました。



また、ペンウェディングスクールには8歳のとき、日本から転校してきた日本人の子もいて、今回のチャリティーでは千羽鶴を作り、病気の子供達に贈る取り組みをしていました。言語も分からない海外に突然、行くとなると彼女にとっては苦労の連続だったと思いますが、このように、自分にできることをしようと行動している姿をみて、同世代なのにこんなにも自立しているのか！ととても大人に見えました。

・まとめ

最終日に心に残った言葉があります。それは日本の高校を卒業し、アベリスツイス大学に入学、今は大学で講師をしている一人の男性の言葉です。「英語は世界に出れば必要最低限のツールであり、なければ話にならないが、それだけあっても意味がない」

現在、世界は国際化の中にあり、日本でも英語学習には力を入れています。しかし、今回の研修で分かったことは、英語は最低限の語彙力さえあれば、大丈夫で、より重要なのは相手の話を聞く意欲と自分をアピールする自己主張だと僕は思いました。これは、海外に行かなくても伸ばすことのできる能力です。日頃からの行いが世界で活躍する人材をつくるのではと感じました。

今回の研修では「Be positive!」の合言葉ので、とにかく色々なことに挑戦しました。食べ物も食べてみると、美味しかったり、積極的に話しかけると、様々な事が分かったりしました。何事も恐れずに、まずはやってみることが大切だと感じました。自分そして日本を外から見ることができ、たくさんの発見がありました。

事前研修、そして現地研修で疑問に思ったこと、それは「なぜ、互いに戦争をしていた両国の町が、和解し交流派遣事業が今なお続き、そしてホストファミリーがこんなにも親切にしてくれるのか」ということです。

今ではそれが分かった気がします。それは歴史が風化し過去を忘れたからではありません。過去を振り返りその上で前を見つめる時間が両国にあったから、今なお交流派遣事業が続いているといることです。時間とは例えば、ケンカをして二人の仲が険悪になったすぐの時は二人共「あいつが悪い」と言うでしょう。しかし、頭を冷やし冷静になる時間があれば二人はまた以前のように仲良くなる、そんな経験はないでしょうか？そして、ホストファミリーはエバンスさんの「平和への思い」を受け継いでいるから僕を家族の一員として受け入れてくれたんだと思いました。

平和な世界をつくる、これは世界共通の理解です。しかし、まだ世界の各地で内戦やテロは続いています。宗教の違いや民族事情などから生まれるこの状況を打開する画期的な方法はないと僕は思います。でも、お互いが理解しあう時間をもつことで「平和」は自然と歩み寄ってくると僕は今回の研修で学びました。

イギリスでは行動力のある生徒がいました、また自分の夢をしっかりと持った高校生がいました。この高校生がいるかぎり、エバンスさんの思いは両国を通して受け継がれるでしょう。

最後にこの研修を支えてくれたすべての方に感謝したいです。そして、この事業がこれからも続いていくことを願い、僕もできることをしていきたいです。ほんとうにありがとうございました。

おわり

アベリスツイス研修報告

福知山成美高校一年 財茂 宙



1.研修の目的

私は祖母から、ニッケル鉱山について聞いていて知っていました。フランク・エバンスさんと関係があると知ったのは、派遣事業を知ってからでした。もっと深く知りたと思いました。そして、私は前から海外に興味がありこの事業に参加したいと思いました。

事前研修では、パワーポイントでの学習や現SL広場の近くにあるニッケル鉱山跡地・石碑、他の高校生5人との話し合いなどを通しフランク・エバンスさんのことを学びました。不安もありましたが、小谷さんが言われていた”何事にも積極的に”を大切に自分が何をできるのかを考えよう、と思いアベリスツイスに行きました。

2. ホームファミリー紹介



左上 アーレン

15歳で私と同じ年。

とても大人っぽくて、フルーツやピアノ、ハーブがひけてとても上手。

右上 ダイ

外科でオペをされている。

サイクリングが好きで画像を見せてくれた。

よく話しかけてくれた。

左下 メガン

私のパートナーで17歳。

おしゃれでネイルをしてもらったり、ルームバンドをつくったり。

明るいしよく話しかけてくれた。

右下 グレンダ

小学校の先生。

私の英語が伝わりにくくても待つて聞いてくれた。

3. 食文化のちがい

* 外食 *

バイキング形式や、はじめからたくさんある料理などでとても大きくおなかいっぱいになりました。

現地の人でも後者の場合残している人も多かったです。

しかし、全部食べきらずに残しそうな人がいると、「Finish-!」といって全部食べるように促していたり、全部食べきると、拍手したり”もったいない”の感覚は一緒だと感じることができ嬉しかったです。

アベリスツイス、海外では、宗教的な理由などで菜食主義の人も多く住んでいるので、肉のような食感のソーセージ、大きめのサラダボールなどが基本的にメニューにありました。

食事中、食事終了、まだ食べたいなどたくさんのテーブルマナーがありました。



* 家での食事とスーパーマーケット *

外食とは違い食べれる分だけとるという方法でした。

日にちや時間によって様々な伝統料理があるそうです。

ある日、私はカレーを食べました。フランス産の米らしく食感が違うことに驚きました。

スーパーマーケットでは野菜などはそのまま陳列してあったり、日本のような個包装が少なかったです。

そして、必ずどのお店でも袋にはお金がかかりマイバッグを持参する人ばかりでした。

大きく日本と違ったのはレジです。

店員さんは座って、ベルトコンベアにお客さんが置き流れてきた商品を精算していました。



3. 学校

プライマリースクール

アベリスツイスには主に英語で話す学校とウェールズ語で話す学校の二校ありました。

日本でいう、幼稚園、小学校、中学校のようなところです。

その一つのウェールズ系の校内を案内してもらったジェイクとジャックに話を聞くと、

「先生の人数が子供の人数に対して少なく、あまり授業を受けれていない。」

とっていました。

日本の少人数教室ってすごく恵まれているんだな、とあらためて感じました。

小さな子供は犯罪に巻き込まれることがあるので顔写真をとることがほとんどだめで、先生も私たちに注意を向けているようでした。

子供たちから高校生ぐらいまで人気の”ルームバンド”、私もメガン達と作っていたので見せ合ったり、長いものをみせてもらったりと、とても楽しかったです。

小学校にも制服はあるみたいですが、着ても着なくてもどっちでもいいので着ていない生徒が多かったです。

幼稚園のようなところでは全員赤のポロシャツを着ていました。



高校

ウェールズ系の学校に訪問しました。

高校になると科目が選択制になり、服飾、音楽、美術、数学などの科目から4つ程度選び、その科目を毎日やっていくそうです。チャリティーコンサートに連れて行ってもらったときに、演奏がすごく上手だったので専門的に学ぶのはよいことだし一人ひとりの個性があつていいなと感じました。

そこが日本とはおおきく違うところだったと思います。

部活はなくテニスコートやバスケットコート、サッカーコートなどは自由に使えるようでした。

制服は上は白のシャツ、下は黒、必ず指定のネクタイでした、逆に言うと、シャツと黒のズボンは自由でした。

高校生のみんなが集まったときはファミリーゲームや音楽、ダンスなどみんなで楽しめるものを中心にしていました。気さくで話しかけやすい人が多くて友達になれました。
アフタヌーンティーやお好み焼きパーティー、ピクニックなどみんな楽しみました。



4. アベリスツイス事情

* 気候 *

7月5日から16日の日程で行きました。晴れている昼間は半そで半ズボンで涼しいのですが、夜になると寒く長袖や長ズボンをはいていました。

アベリスツイスは天気が変わりやすく、いつも車にパーカーが何枚も乗せてありました。

私達はラッキーなことに晴れの日が多かったらしいですが、アベリスツイスの普通は曇りらしいです。



* 町並み *

アベリスツイスは人口よりも羊や牛がいるらしく、あたりの山には木がなく、野原になっていてそこにたくさんの羊がいました。カラフルな家が多かったです。

信号機は日本には当たり前のように田舎にもありますが、アベリスツイスではほとんどなく、かわりにロータリーで車の接触がないようにしていました。

メガンは17才の高校三年生なのですが、車の免許をとる勉強をしていました。

17歳からお酒が飲め、車の免許がとれるようになるそうです。

高校生の間は基本的にはお酒を飲まないそうです。



ごみ

ゴミ箱のまわりにごみがあったり、毎日そうじをする車が走っていました。
アベリスツイスはいたるところにゴミ箱がありいいなとは思いましたが、ポイ捨てが減っていないように思いました。

ポイ捨てをする人はやっぱりいるんだなと思わず少し悲しくなりました。
早く気づいてほしい、一人ひとりの自覚が必要だと感じました。



ウェールズ人であることの誇り

ウェールズの国旗には赤いドラゴンがえがかれているのですが、そのモチーフのものが家に飾ってあったり、お土産やさんにも数多くの国旗モチーフのものがおいてあったりとウェールズ人であることを大切におもわれていました。

「アベリスツイスにくるまでに何か調べてきた？」ときかれたので

「赤いドラゴン、国旗？」

というと嬉しそうにならずいてくれました。

イギリスはイングランドと攻め入られた3の国でなりたっています。その一つのウェールズでは私達がよく知るユニオンジャックではなく赤いドラゴンの旗を大切にされているのも歴史を考えればうなずけるかもしれませんが、自分の生まれを誇れることはすばらしいことだと思います。



5. 平和について

この訪問の一番の目的であるフランク・エバンスさんのお墓参りをしたり、植樹された与謝野町の木、椿を見に行き私が感じたのは、”平和であり続けるのは難しいようで簡単なのではないか”ということです。

この交流はフランク・エバンスさんやその周りの方、両町の賛同、協力があって実現しています。

その賛同、協力を少なくとも与謝野町に広げていきたい、そう思います。広げることは難しいかもしれない、教科書からでは本当の戦争の怖さはわからないかもしれない。

それでも進んで戦争しようという人はいないはずです。

いろいろな理由で戦争は起こっています。

なくすことは難しいかもしれないけれど、この文を読みやっばり戦争はだめなんだと感じてもらい、フランク・エバンスさんのことを調べてくれる人が一人でもいてくれたなら、それを広げていけたなら、私の研修、研修報告が役に立てた、といえるのだと思います。

私はもし戦争を日本がしようとするならば、もちろん猛反対するだろうし、他の団員の高校生5人も同じだと思います。



6. これからにむけて

私の将来の夢は教師、音楽関係の仕事です。

どちらも伝えることができる仕事だと思うし、この研修で身についた積極的に聞いたり、動いたりすることがこれからも必要になってきます。この研修で学んだことを生かしてがんばりたいと思います。

中学英語しこしゃべれなかったけど、コミュニケーションがとれたので、さらによくなるように与謝野町にきてくれたときにもっと話せるように努力していきます。

この交流によって自分の視野がひろがりました。

この交流ができてほんとうによかったです。

親、両町の役員の方、ホームファミリーのみなさん、訪問団員のメンバーのみなさん、ありがとうございました。